

# 北の森林 も 林 国 有 林



北海道森林管理局



Photo : Nobuhiro Horii

網走管内の秀峰・むりだけ武利岳（1,876m）の紅葉



国民の森林・国有林

地球を守る木 みんなの財産国有林

# 美しい森林づくり 森林のつどい2008育樹祭 in 知床

→知床・斜里町ウトロのオホーツク海を見下ろす国有林で開会式が行われま  
した。



↑さあ、張り切って森林の中へ。植栽から37年を経たトドマツの人工林をさらに大きく育てるための「間伐作業」です。



←知床の森林を立派に育て、後世に引き継いでいきたいと思います！  
川副 斜里町副町長



←育樹祭を契機に、森林づくり活動を一層推進していきましょう！  
山田 北海道森林管理局長

九月二十七日（土）、知床の斜里町ウトロにおいて北海道との共催で、美しい森林づくり「森林のつどい二〇〇八育樹祭」を開催しました。

知床は、流水が育む豊かな海洋生態系と原始性の高い陸上生態系の相互関係に特徴があること、シマフクロウやオオワシなど世界的希少種の重要な生息地を有することなどが評価され、平成十七年七月に日本で三例目の世界自然遺産に登録されています。

この知床の森林を立派に育て、後世に引き継ぐとともに、森林づくりの大切さなどを理解してもらい、今後の森林づくり活動を一層推進していただくことがこの育樹祭の目的です。

当日は、百名を超える一般市民のみなさんが参加し、植栽から三十七年を経たトドマツの間伐に汗を流しました。

ヘルメットをかぶった参加者のみなさんは、森林管

理局・署職員や森林インストラクターのサポートを受けながら、ノコギリで慎重に切り倒し、「間伐の大切さがわかった」、「はじめて木を切り倒して感動した」などと話していました。

作業終了後には、来賓による記念植樹と標柱建立を行いました。その後、海と川と森林のつながりを実感してもらうために、遠音別川へ移動して、オスの背中が大きくせり上がることからセツパリとも呼ばれるカラフトマスの遡上を見学しました。

昼食の後、国設知床野営場に用意したステージで、室蘭市出身のシンガーソングライターでバイオリニストの百香さんのミニコンサートが行われ、木立の中に澄んだ歌声とバイオリンの音色が響き渡りました。

秋の一日を美しい森林づくりに取り組んだみなさんは、にこやかに帰路についていました。

（指導普及課）



←狙った方向に倒れるように、木の幹に「受け」という切れ目を入れてから切り倒します。



←木を伐るなんて初めてです！みんなの応援を受けながら、ノコギリがんばってます。



←女の子も一生懸命。森林管理局のおじさん、しっかり押さえてね！



←安全確認して、最後の一手を入れると「倒れるぞ〜!!」



↑東京からのツアー旅行で参加したみなさん。知床の森林の中で「自然がいっぱいだ〜！」とあちこちから感激の声が。みんなで切り倒した木の幹を輪切りにした大事な記念品を手にパチリ！

## 間伐で知床の森林をさらに大きく育てよう！



作業が終わったあとは、知床野営場に会場を移して、室蘭市出身のシンガーソングライター・バイオリニストの百香さんのミニコンサート。木漏れ日の知床の森に響き渡る澄んだ歌声とバイオリンの調べに、参加者のみなさんは作業の疲れも忘れて、うっとり聞き入っていました。





# 街のど真ん中で苗木づくり

札幌 水源の森づくり 2008

→できあがったら、大通公園の真ん中に作った「山」にどんどん並べていきます。



↓続いて、ポットに、ていねいに苗木を植え込んでいきます。



↑まずは苗木ポット「カミネッコン」の組み立てからスタートです。

【石狩地域森林環境保全ふれあいセンター】九月六日（土）、札幌市大通公園で、札幌市との共催で「札幌水源の森づくり二〇〇八」を開催しました。

このイベントは、都会の真ん中で水源の森に植えるポット苗木を市民のみならず、に作っていたかどうかというものです。五年目をむかえた今年、初年度より継続的に協力をいただいている「北国の森づくりサークル」に加え、新たに「日本フラワーデザイナー協会」からたくさんの方々が提供していただきました。

この日は天候にも恵まれ、大勢の市民や観光客の方が再生紙段ボールの苗木ポット「カミネッコン」を組み立て、ヤチダモ、ハルニレなどの苗木が大きくなるようにとの願いを込めて作製したポットに植え込んでいました。

また、「北国の森づくりサークル」代表で北海道大学名誉教授の東三郎先生

のミニ講演会や、「水源の森」定山溪国有林・札幌の美しい水・地球温暖化に関するパネル展示を利用したクイズラリーなどもあわせて行い、多くの家族連れが楽しんでいました。

当日行ったアンケートによれば、目を引くパネルやスタッフの勧誘などに足を留めて参加した人が三割に達し、山で行う森林づくりイベントとは一味違う「気軽さ」が数字にもあらわれました。

なお、みなさんに作っていただいたこのポット苗木は、十月初旬に「北国の森づくりサークル」のみならずが中心となって、札幌市の水源の森である、定山溪国有林に植栽することになっています。

今後は、ポット苗木作りのほか、実際の植樹への参加やこれまで植栽したポット苗木の成長を見るイベントなども企画していきたいと考えています。

（豊田 自然再生指導官）

# 歌オブナ林天然記念物指定80周年記念事業

## 国際ブナフォーラム2008



未来を見据えたブナ林の復元に向けて



北限のブナ復元への取り組みを紹介



北限域のブナ林をパネルで解説



海外の研究者らによる現地検討会



### 北限のブナの新たな意義とは？

### これからの北限のブナ林はどうなる？

### 海外のブナ研究者が黒松内に集う！

北海道森林管理局では、九月六日（土）～八日（月）の三日間にわたり、「国際ブナフォーラム二〇〇八」を、同フォーラム実行組織連合との共催で黒松内町立黒松内中学校において開催しました。

このフォーラムは、黒松内町の歌オブナ林(国有林)の天然記念物指定八十周年記念と併せ、北海道森林管理局が取り組む「北限のブナ復元プロジェクト」の推進に資することを目的に実施したものです。

初日から二日目午前にかけて行われた「天然記念物指定八十周年記念セッション」では、歌オブナ林の歴史を題材にした一人語りや基調講演、「地球温暖化時代の北限のブナ林」についてのパネルディスカッションが行われました。

二日目午後からの「北限のブナ復元セッション」では、山田北海道森林管理局長のあいさつに続き、海外研究者によるデンマークの

ブナ林施業の特別講演、地元の黒松内町、寿都町、島牧村の住民の森づくり活動紹介、パネルディスカッション「未来を見据えたブナ林の復元に向けて」では、生物多様性検討会委員の辻井北海道環境財団理事長と鷺谷東京大学大学院教授、安楽北海道森林管理局計画部長がパネラーとして登壇し、ブナ復元に向けた多様な討論が交わされました。

最終日には、IUFRO（国際森林研究機関連合）国際ブナシンポジウムで来日した海外のブナ研究者ら七十名が、歌オブナ林等での現地検討会を行いました。

全体を通して熱心な発表・議論が行われ、パネルディスカッションでは、「ブナ林を復元することの目的を明確にした方がよい」との意見や、「復元には地域連携が重要である」との指摘がなされるなど大変有意義なフォーラムとなりました。（指導普及課）

# 秋の森林の恵み キノコに スポットを当てて



↑キノコの見分け方の説明に、みなさん真剣な眼差しです。  
 ▼沢山のスライドを使った講演にみなさん興味津々でした。  
 ◀70種類ものキノコを同定し、みなさんキノコ博士に。  
 ◀◀ウッディーホールでのキノコの写真展も沢山の人が訪れました。

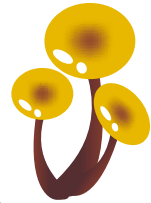
北海道森林管理局では、一般市民のみなさんを対象に「心と体に効く森林の不思議体験！」をテーマに八月から六回のプログラムで公開講座を行っています。九月開催の講座ではこのキノコにスポットを当ててみました。

秋の森林の恵みと言えば、真っ先に思い浮かぶのがキノコです。



心と体に効く森林の不思議体験！

みなさん真剣な眼差し  
食欲の秋の森林公開講座



翌週の九月十七日（水）に開催した六回目の講座では、札幌市の定山溪国有林において、引き続き同名誉教授によるキノコの観察会を行い、七十種類ものキノコを同定しました。

九月十日（水）に開催した五回目の講座では、五十嵐恒夫北海道大学名誉教授に「マツタケも腐りかけは危険！キノコの成長と可食変化」と題した講演をしていただき、食べられる美味しいキノコでも、古くなったり、大量に食べたりすると人体に害を及ぼすことがあり、その仕組みなどについての詳しい解説がありました。

キノコの見分け方の説明では、みなさんメモを取りながら、真剣な眼差しでキ

ノコの種類を覚えていました。きっと今シーズンは、みなさんの食卓に美味しいキノコが沢山並ぶことでしょう。

当日採取したもので食べられるキノコは参加者がそれぞれ大事に持ち帰り、きつとその晩は各家庭で色々なキノコ料理を楽しまれたのではないのでしょうか。

また、本公開講座にあわせ、北海道森林管理局のウッディーホールでは「森林の妖精キノコの世界写真展」を開催し、ユニークなキノコの写真と軽妙な説明文が訪れたみなさんを楽しませていました。

（指導普及課）

# 署長 雑感

## 北海道のカミキリムシの生態にふれて

### 森林害虫駆除対策の実践



十勝西部森林管理署  
署長 岡 義人

平成十八年  
八月、十勝西  
部森林管理署  
勤務となり、

北海道の大自然の中で、多くの動植物との出会いがありました。

大好きな昆虫以外の動植物はデジカメで記録し、絵合わせで同定をしています。

せっかくの機会を頂いたので、森林害虫のうち、山官になじみの深いカミキリについて紹介したいと思います。



シラフヨツボシヒゲナガカミキリ

森林に生息する昆虫で樹木に依存するものは、生立木（衰弱木）を加害し枯死

させるものと枯損木のみを食べるものに区分でき、前者が森林害虫ということになります。

北海道の森林害虫の代表格はトドマツ等の生立木を加害するオオトラカミキリです。

ところがオオトラカミキリは、圧倒的な珍品度ナンバーワンの昆虫で、ほとんどの虫屋（※虫の研究者や愛好家のこと）が出会いたいと願いつつ、その思いが叶わないまま一生を終えることになります。

平成十九年の十勝の夏は冷たい雨にたたられ、夏らしい日を迎えることなく過ぎ去ろうとしていました。そのような中、秋風が吹

き始めた八月下旬、オオトラカミキリが目の前ホザキナカマドの葉上に現れてくれたのです。

その後、冷夏を乗り切った真夏のカミキリが九月下旬まで、発生し続ける不思議な年でした。

トドマツ等の針葉樹の伐採木に集まるシラフヨツボシヒゲナガカミキリは北海道特産種の体長が三〜四cmと大型のカミキリで、捕まえるとキィキィと音を出

す、最もポピュラーなカミキリです。

赴任した年は沢山の個体を標本

にしましたが、次のシーズン以降は、捕まえて殺虫する森林害虫駆除対策の実践を図っています。

北海道には約二五〇種のカミキリが生息していますが、そのうち、多大な材質劣化を引き起こす珍品と最普通種を紹介しました。北海道のカミキリムシの生態にふれながら、大自然の中で森林・林業に向き合える今の生活に満足しています。



珍品度No.1  
オオトラカミキリ

# 森林環境保全 ふれあい センター

通信



森林環境保全ふれあいセンターは、国有林をフィールドとした自然再生や生物多様性の保全、森林環境教育などの活動を支援しています。

当日はまず、試行実験区に設置されたシードトラップへのシラカンバの種子落下量を調べてから、地拵えと広葉樹種子豊凶調査の二班に分かれて作業に入りました。地拵えでは、秋の雷別自

（白藤 自然再生指導官）

れていました。

## ドングリ倶楽部 おおいに汗をかく！ 地拵作業と種子豊凶調査

釧路湿原森林環境保全ふれあいセンター

九月十三日（土）、晴れわたった秋空の下、標茶町雷別国有林の自然再生事業地で雷別ドングリ倶楽部のみなさんが地拵え作業と広葉樹種子豊凶調査を行いました。

の実り具合を、双眼鏡等を使って行い、シラカンバ・ミズナラ・カシワは豊作、キハダは並作、イタヤカエデ・ヤチダモは不作といった状況でした。

午後は、班の作業内容を交代して実施し、なんとか予定した地拵えを終了しました。きつい作業でしたが、みなさんの顔には作業を成し遂げた達成感が溢れていました。



↑今年は何の木が種が豊作かな？

然再生学習会で植栽予定の十以上の四方の笹地を、鎌で刈り払いしました。

種子豊凶調査は、植栽に用いる樹種の種子



→鋭いトゲが作業を阻むアメリカオニアザミ  
↑植栽から九〇年経ったハルニレの調査

八月三十日（土）、野幌森林公園で二回目の野幌森林づくり塾を開催し、外来種の抜き取り作業などを行いました。

## 百年前の原始性を感じられる森へ

野幌で外来種の抜き取り作業  
石狩地域林環境保全ふれあいセンター

みなさん、もっと大木であることを思い描いていたのではないのでしょうか。（豊田 自然再生指導官）

今年、オオハングンソウとアメリカオニアザミの抜き取りも併せて行いましたが、どちらも根こそぎ抜きとするのは大変な作業で、特に革手袋をも突き通すア

現場は昨年、ニセアカシア、カラマツを一本残らず抜き取った個所でしたが、すでに新しい芽が顔を出していました。

太さは最大だった天然性のもので五十センチ、植栽木では四十六センチが一番と、意外と？細身。毎木調査を体験しながら観察しました。

メリカオニアザミのトゲの鋭さには驚きでした。

午後からは、大正六年にハルニレが植栽された個所を、植栽後九十年を経るとどのような森になるのか、



九月十一日(木)、  
修学旅行で大沼を訪  
れた兵庫県立三田祥  
雲館高等学校の二年  
生のみなさんと森林  
教室を開催しました。

同校の修学旅行は  
地球環境に配慮し、  
地球温暖化防止のた  
めの記念植樹や講話  
を通じて水質改善や  
森林の環境保全など  
を学習するとともに、移動  
に使う交通機関などが排出  
する二酸化炭素の  
吸収費用の一部を  
旅行代金に上乗せ  
する形で埋め合わ  
せる「カーボンオ  
フセット」を今年  
度から採用してい  
ます。

会場となった七  
飯町の大沼森林公  
園では爽やかな秋  
晴れのもと、当セ  
ンターの役割や道  
南の自然の解説を  
行ったほか、森の中でトド  
マツの松ヤニを出して見た

## 修学旅行で森林教室

兵庫県三田祥雲館高校

駒ヶ岳・大沼森林環境保全ふれあいセンター

(小林

自然再生指導官)

この森林教室が  
生徒のみなさん  
にとって修学旅行  
の良き思い出とな  
てくれることに  
に、環境や森林に  
ついて考えるきつ  
かけとなってくれ  
ればと思っていま  
す。

り、オンコの実を食べたり  
しながらの樹木の説明やブ  
ナなどの押し葉を  
使ったパウチしお  
り作り体験を行  
いました。



↑北海道の木トドマツに興味津々

八月三日(日)、北見市  
のオホーツクの森におい  
て、「こども環境  
ウォッチング」が  
北見市の主催で開  
催され、当ふれあ  
いセンターでは森  
林をテーマとした  
野外体験活動をサ  
ポートしました。  
これは、体験を  
通じて環境諸問題  
への関心を深め、  
環境を守るため  
に、子どもたちが  
自ら考え行動でき  
る力を身につけることを目  
的に実施されたものです。

## 森にふれ、感じ、 体験しよう!

北見・こども環境ウォッチング

常呂川森林環境保全ふれあいセンター



↑どの苗木にしようかな～



↑さあみんな～元気に森へ行くぞ～! お～!!



↑オホーツクの森で色々な話を聞きました

当日は「森・川・海」を  
テーマに三グループに分か  
れた中の「森」グ  
ループの小学生ら  
二十三名のみなさ  
んを職員が案内  
し、植樹体験と森  
林観察を行いました。  
午前中は、再生  
紙段ボール育苗ポ  
ット「カミネッコ  
ン」を組み立て、  
山へ移動して苗木  
を掘り取ってポツ  
トに植え込み、そ  
のポットを林内に設置する  
方法で植樹体験と、シカや

ウサギの食害を防ぐための  
ネット張りを行いました。  
午後からは、「古の森」  
での森林観察を行い、森に  
棲むアカゲラ、水の大切さ、  
食物連鎖、ニガキの木の苦  
さ、世界には何千年も生き  
ている木があることなどを  
説明し、子どもたちは身を  
乗り出し、時には驚きなが  
ら聞いていました。  
最後にオホーツクの森の  
展望台から網走湖や能取湖  
のすばらしい景色を眺め、  
沢山のことを体験し、発見  
した楽しい一日を終えまし  
た。  
(浅田 自然再生指導官)

# 自然 to 遊び隊!

第 3 話

自然の中で楽しく遊び、  
その大切さ、すばらしさ体感!  
道内各地で活躍中の“隊長さん”からの  
メッセージを紹介します



## 発見と感動を子どもたちに贈りたい 道北自然観察指導員会

小さな自然観察クラブ～地域の身近な自然を実体験～

北国の長い冬が終わり、待ち遠しかった春を迎え、桜が咲く毎年五月、きらきらと目を輝かし二〇名の子どもたちがやってきます。「小さな自然観察クラブ」は平成五年に小中学生を対象にスタートし、毎月第二土曜日に開催し、これまで延べ二千名を超える子どもたちが参加しています。クラブ立ち上げのきっかけは、平成三年に名寄市で開催された(財)日本自然保護協会主催による講習会を修了し、「自然観察指導員」となった名寄市在住の約三〇名の仲間と「道北自然観察指導員会」を結成したことです。「せっかく資格を取ったのだから、地域の子どもたちのために何か実践しよう!」ということになりました。

活動内容は、春夏には森で野鳥や植物を見たり、登山をしたり、川で魚釣りをしたり。秋には森できのこを採集し、焚き火できのこ汁を作ったり、ぶどうづつると松かさでリースを作ったり。冬にはかんじきで森の中をトレッキングしたり、イグルーを作ったり、人工雪の実験など様々な活動をしてきました。毎回、子どもたちが生き生きとした表情で楽しんでいる姿が見受けられ、家庭に帰ってから「ただいま!」の声に続いて、家族に自分の感動を伝えているようです。また大人である私たち指導員も自然を満喫し、大いに楽しんでいます。私たちがこれまで実践してきたことは、大それたことではなく、身近な自然の中で、五感を使って季節の移ろいや自然の雄大さなどを体感してもらうことをモットーにしました。子どもにも知識を与えるといったスタンスではなく、自然の中で子どもと大人が同じ目線で接し、「小さな自然」へ目を向け、「発見」「感動」を子どもに贈ってあげたいというポリシーで取り組んできました。

### 今月の“隊長”

道北自然観察指導員会  
事務局員 吉田 清人さん



同会事務局員として各種自然観察会などを企画運営。趣味は登山で道北の夏山を中心に登っている。名寄市在住。名寄市北国博物館学芸員。NACS-J自然観察指導員。

〇同会の連絡先 名寄市北国博物館  
TEL/FAX (01654) 3-2575

これまで足掛け十五年、多くのクラブ員が巣立っています。自然と人間は一体であり、森・川・海はつながっています。鮭が生まれ育った川に湖上・産卵するかのごとく、かつての参加者が森や川で体験したこと、を少しでも記憶にとどめ、将来は自分の子どもや地域の子どもたちに、森や自然の大切さを伝えていってほしいものです。これからもその思いを胸に活動をつづけていきたいと思えます。

レク 森 紹 介



国有林には、その自然環境を活かし、自治体等によって運営されるキャンプ場がたくさんあります。

このコーナーではその魅力の数々を紹介していきます。



東大雪の大自然に抱かれて

## 国設めかびら野営場



登山者のテントが多いフリーエリア（写真手前）とキャンピングカーが多いオートエリア（後方）で異なるキャンプ風情



ランタンを灯し語り合うキャンパー



真っ赤な屋根が緑に映える炊事場



糠平湖に映る姿が美しい旧国鉄士幌線タウシュベツ川橋梁



サイトを経由して伸びる旧国鉄士幌線跡の自然歩道は延長約8km

東大雪の山々や糠平湖のすばらしい自然を背景にした「国設めかびら野営場」は、上士幌町役場が運営しています。

キャンプガイド誌で、その自然環境の良さが道内ベスト5に入ると賞賛されたこともあるこの野営場は、トドマツ・エゾマツ・シラカンバの深い森林に囲まれ、クマゲラのドラミング、夜には満天の星空の下、フクロウの音が聞こえることも。

サイトはテント専用のフリーエリアと車を乗り入れられるオートエリアに分かれ、設備は炊事場とトイレのみとシンプルです。

フリーエリアは、ニペソツ山や石狩岳などへの登山のベースキャンプとして利用する方が多く、早朝に山へ出発し、昼間は無人のテントがならんでいます。夕方には登頂成功の満足感がサイトに漂います。一方、オートエリアはファミリー層やキャンピングカーの利用が多く、スタイルが分かれています。

登山以外には、湖でのカヌー、旧国鉄士幌線跡を利用した全長8キロの自然歩道トレッキング、国の登録有形文化財や北海道遺産に選定されている同線のアーチ橋梁群ウォッチング、そして糠平温泉や幌加温泉での湯浴みなど沢山の楽しみが広がっています。

残念ながら本コラムの掲載時には、今期の開設期間は終了していますが、ぜひ来シーズンは、東大雪・糠平のすばらしい自然を楽しみにいらして下さい！



### DATA

- 所在地 河東郡上士幌町糠平温泉
- 利用形態 芝生のフリーエリアと草の生えた地面のオートエリア（電源等の設備は無し）
- 施設 水場・トイレ・管理棟
- 料金 大人350円・小人200円・日帰り料金あり
- 開設期間 例年6月下旬～9月下旬
- 問い合わせ 上士幌町役場産業課 01564-2-2111

# 治山最前線 駒ヶ岳の国有林治山事業

## 土石流災害から 地域を守る



山地の保全・災害復旧などの治山事業を現地で担う  
各地の治山事業所からのレポートを紹介します

### 渡島森林管理署 森治山事業所

- ↑土石流災害を防ぐ駒ヶ岳山麓・押出の沢溪間工
- 拡大が続く、留の沢上流部のガリー
- 駒ヶ岳と大沼の織りなす美しい風景



渡島森林管理署森治山事業所は、渡島半島南東部の森町にあります。森町は、明治元年（一八六八年）に榎本武揚率いる旧幕府軍の艦隊が上陸した地として知られ、恵み多い内浦湾に面し、温暖な気候と豊かな自然環境を持ち、秀峰・駒ヶ岳（二一三二メートル）の裾野に広がり、桜の名所としても有名です。駒ヶ岳は、一六四〇年に噴火をして以来、一六九四・一八五六・一九二九・一九四二・一九九八年と長年、噴火を繰り返しており、私たち渡島森林管理署としては、土石流の災害防止と駒ヶ岳の自然回復のため、また地域住民の皆さんが安心して生活できるように治山事業を行っており、署の出先機関として現場を治山事業所で担っています。駒ヶ岳は未だ山全体が軽石流堆積と降下火砕堆積物で覆われており、谷止工及び床固工を施工し予防に努めています。まだまだ不

十分な状態です。

前回の噴火から十年経ちましたが、未だ山腹の崩壊、リル浸食（流水が集まり、細い溝となって流れ出す溝状の浸食）、ガリー（岩壁に食い込む急な岩溝）の拡大が収まらず、山腹上流部では日降水三十五<sup>ミ</sup>程度で土石流が発生する状況です。

一九九八年の噴火後に近隣市町村（函館市・七飯町・鹿部町・森町）と関係機関（気象庁・警察・海上保安庁・北海道開発局・渡島支庁・土木現業所・森林管理署）とで防災対策協議会が立ち上げられ、噴火に備えての監視カメラ・観測機器の設置及び観測が進められています。

現場は、いつ土石流・噴火が発生するか分からない状況ですが、治山工事を担う請負事業者等のみならず、共々、常に災害に対して話し合い、駒ヶ岳の復興に向け頑張っています。

私はこの事業所に赴任し

て半年が過ぎましたが、関係団体・請負業者の方々との協力のおかげで、今のところ事故や災害もなく工事を進めることができ、今後もこれを継続していきたいと思っています。駒ヶ岳の登山は未だ規制がかかっていますが、町主催で調査登山を行っておりますので、機会があればぜひ、ご参加いただき、噴火後の状況をご覧になって下さい。

### 渡島森林管理署 森治山事業所

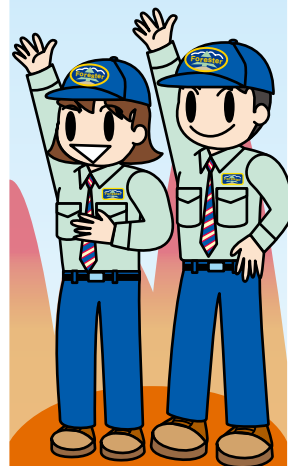
- 茅部郡森町字上台町299-1
- 電話／01374-2-0146

主任 佐藤 忍



# 森林官 リレー

## ガルトネル・ブナ林と 市民参加の森林づくり



渡島森林管理署  
七飯森林事務所

森林官  
**立花 幹雄**

**七**飯森林事務所は、渡島半島の南東に位置し、北は駒ヶ岳を背景にした大沼国定公園、西は北斗市、東は横津岳、南東には

恵山道立自然公園があり、函館市（旧恵山町、榎法華村）、七飯町の国有林野三千三百ヘクタール余りを管理しています。

### ガルトネル・ブナ林

七飯町の「ガルトネル・ブナ林」は、明治二年から三年にわたり、ドイツ人の農業指導者R・ガルトネルが、故郷の風景を偲んで付近の山から採取したブナの苗を植栽したものです。歴史的な文化遺産として、ブナの人工林としても学術的にも価値が高いことから、昭和

四十九年から植物群落保護林に設定されています。植栽後百三十余年を經過し、年々腐朽度が高くなると、枯損木が多くなっています。立木の一部を伐採するなど、多くの人の憩いの場となるよう整備に取り組んでいるところです。

### ポランテアによる森林づくり

当森林事務所管内では、大沼公園近郊のカリマ国有林及び吉野山国有林を舞台にしたポランテア団体等による森林整備が活発に行われています。平成十二年に始まった大沼の水と緑を守る会の「大沼湖の魚を育てるふれあいの森」、「吉野山ふれあいの森」を始め、同十六年の台風十八号による被害跡地で

は、函館柏稜高校・函館有斗高校の高校生や北海道カス・函館元町ライオンズクラブ・北海道グリーンビジネスなどの団体やシーニツクバイウエイによる被害地再生の森づくりが進められています。

また、二十一世紀の道南の森づくり事業実行委員会による、北海道洞爺湖環境サミット記念に関連した植樹が来年・再来年と計画されるなど、数々の活動が繰り広げられています。

### 市民とのふれあいを大切に

このような活動のお手伝いを通じた数多くの市民のみなさんとのふれあいを大切にしながら、これからも森林づくりに努めていきたいと考えています。



(左が立花森林官)

### 七飯森林事務所

- 亀田郡七飯町本町2丁目
- 電話0138-65-2026



# 各地からの便り



## 高校生が林業現場を体験

空知森林管理署

9月18日、北海道岩見沢農業高等学校の森林科学科のみなさんが、今後の進路選択等に活かすために、岩見沢市の万字国有林で民間事業体が請負で実行している素材生産現場を見学しました。

当署の国有林の概要説明等とあわせて、請負者による高性能林業機械作業の実演や同校OBの社員からこの仕事の魅力や苦労話などを聞き、将来の進路について考える有意義な1日となりました。



## 署長が講演「美しい森林づくり」

後志森林管理署

9月5日、倶知安町森林・林業・林産業活性化議員連盟定例会において、同連盟からの依頼を受け、美しい森林づくり・間伐推進対策などについて署長が講演しました。講演後には「道に移管される羊蹄山の民有林直轄地山事業の動向」、「間伐事業の高性能機械の利用状況」、「間伐材等素材の利用動向」などについての熱心な質疑応答が行われました。

9月6日、当署と分収造林契約を結んでいる日本生命保険相互会社の「ニッセイ標茶の森」で同釧路支社主催による育樹活動が行われました。



## ニッセイの森で育樹活動

根釧西部森林管理署

この活動は、「紙として使用する森林資源を地球に還元することを目的」として、平成8年から「“ニッセイの森”友の会」の会員らが植樹したトドマツ・ミズナラ・エゾヤマザクラなど9,400本の木々を豊かな森に育てることを目的として実施されています。

当日は、同会々員とその家族ら50名が参加し下刈り作業に汗を流しました。

9月16日、JICA（国際協力機構）からの受託研修による「共生による森林保全コース」の研修員13名が、えりもを訪れました。



## JICAえりも緑化を視察

日高南部森林管理署

地域住民参加型の持続的森林経営を目指しているブルキナファソ・カンボジア・中国、森林の過剰・不法伐採対策に苦慮しているフィジー・ケニア・ミャンマー・ニジェールといった国々から研修に来ているみなさんは、えりも治山事業所安田主任からの「えりも式緑化工法」、国の事業と地域が一体となり実行した「草本緑化事業」などの説明に、食い入るように聞いていました。また、熱心な質問を繰り返し、「大変貴重な現場を視察でき、この経験をそれぞれの国に持ち帰って活かしていきたい」と話していました。



### オカリナの美しい調べが響く夕べ～森林管理局でコンサート～

9月3日、北海道森林管理局・ウッディーホールにて音楽ユニット「織音おりおん」による森林のコンサートを開催しました。

これは森林公開講座の第4回目として開催したもので、木々の香り漂うホールにオカリナ、ギター、パーカッションの演奏が響きました。

観客が楽器を持って演奏に参加する場面もあり、会場が一体となった楽しいコンサートになりました。



### クッチャロ湖学生サミット

宗谷森林管理署

9月1～7日、浜頓別町のクッチャロ湖において「人と地球のつきあい方」をテーマに、同湖の保護と利用を考える「クッチャロ湖環境学生サミット」が、同サミット実行委員会の主催で開催され、浜頓別・下頓別・鬼志別森林事務所の職員が同湖上部のポン沼周辺を中心に遊歩道を歩きながら国有林野や周辺の自然環境などについてガイドを行いました。



### 中国から森林づくり視察団

9月5～7日、中国国家林業局対外協力プロジェクトセンターの金団長一行が宗谷署管内の造林地を視察しました。

一行はハードルフェンスを活用して笹生地を造林した稚内海岸防災林などを回りました。同国では流砂対策に苦勞しているとのことで、フェンスの効能に大変興味を持たれたようでした。



### もりもりかぐら森森調査団

上川中部森林管理署

旧旭川分局庁舎を引き継ぎ地域住民の諸活動の場となっている旭川市神楽公民館の敷地には、分局時代のまま40種199本の樹木が生育し、また、隣接する北海道森林管理局旭川事務所周辺にも17種110本の樹木が生育しており、広く市民に親しまれています。

このたび、旭川市と同教育委員会から、この貴重な樹木を市民への啓発活動に利用したいとの話があり、当署職員及びそのOB、(社)全国森林レクリエーション協会が協力し、9月6日に親子を対象とした「子ども樹木博士になろう！かぐら森森調査団」、同7日には市内の「百寿大学」のみなさんを対象とした「神楽地区樹木めぐり散歩」を開催し、地域のみなさんに樹木に親しみ、知識を深めていただきました。



### もりもりとましん森林の音楽祭

胆振東部森林管理署

9月20日、苫小牧市高丘の国有林にある法人の森林で、苫小牧信用金庫・とましんアッペナイもりの森林と親しむ会の主催で「とましん森林の音楽祭」が開催されました。

4回目となった今回は市内の知的障がい者授産施設「美々川福祉園」の利用者のみなさんが招かれました。

当日は秋晴れの中、アフリカの太鼓「ジャンベ」と電子ピアノの軽快な音楽が森林の中に響きわたり、手拍子や身振り手振りで踊ったり、用意されたバーベキューを食べたりと楽しいひとときを過ごしていました。

北海道林業技士会は、会員の資質向上等と、地域の森林・林業の発展、市民や小中高生に対する森林環境教育に寄与することを目的に設立された団体です。

本会では8月30日、江別市野幌町にある石狩森林管理署の野幌樹木園において、一般市民を対象に、「北海道の森林づくり歴史探訪」と題した観察会を開催しました。

当日は40名の市民の参加があり、午前中は樹木園内、午後は野幌森林公園内のカラマツコースを案内し、解説を行いました。

樹木園では、明治41年の開設の経緯、その後の社会情勢の変化、自然災害などを通じた沿革を説明しながら、100年の歳月を経て大きく生長したブナ、ミズナラ、ハリギリ、アカエゾマツ、エゾマツや異郷土樹種カラマツ、ヒノキ、サワラ、ユリノキなど30数種類に及ぶ樹木を観察しました。また、カラマツコースにおいては、樹木園造成時と同時期に植栽された異郷土樹種のスギ、ストロブマツ、カラマツ、郷土樹種のヤチダモの造林地を観察しました。

参加者のみなさんは明治の人たちの森づくりへの情熱とその苦勞の成果を目の当たりにし、一様に感動していました。  
(北海道林業技士会事務局 西川滯二)



### 北海道の森林づくり歴史探訪

北海道林業技士会



森林病害虫 キクイムシの説明を受ける研修生



北海道森林管理局では、国有林を適切に管理し、より一層国民に開かれたものとするため計画的に職員の研修を実施し、その責務と使命を自覚し、実行する人材の育成に取り組んでいます。

## 森林整備研修

九月十七日(水) 十九日(金)の三日間、森林官等を対象とした森林整備研修を実施しました。

京都議定書の第一約束期間が始まり、二酸化炭素の森林吸収量の目標を達成するために今後ますます森林整備の重要性が高まります。

今回の研修では、今後の森林整備事業の中で大きなウエイトを占める保育間伐の実施等についての講義と実習を行いました。研修生は、講師の指導を受けながら将来の森林の状態を想定した効果的な間伐方法について検討し、技術向上への課題に取り組みました。

(総務課)

国産材使って減らそうCO<sub>2</sub>  
十月は、「木づかい推進月間」  
国産材を使いましょう  
3.9

広報「北の森林 国有林」10月号 No.101

発行 北海道森林管理局

編集 保全調整課

〒064-8537 札幌市中央区宮の森 3条7丁目70

I P 電話 050-3160-6274

電 話 011-622-5231

F A X 011-622-5235

<http://www.hokkaido.kokuyurin.go.jp/kyoku/>

訂正  
8月号の12ページ「楽しく木工作にチャレンジ」が行われたのは遠軽東小学校でした。お詫びして訂正します。

▽十月二十日(月) リフレクシユ検討委員会の森上川南部署管内  
▽十月二十四日(金) えりも岬の緑を守る会・イキイキ森林づくり事業 えりも町  
▽十月二十五日(土) 道民森林づくりネットワーク 赤レンガ庁舎

EVENT INFORMATION

行事・イベント情報